

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	令和4年度 港北水と緑の学校事業		
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク	
	行政	横浜市港北区	
事業の目的	港北区において、環境活動や防災活動が継続的に地域に根づくことを目指し、学校と連携し、流域の自然環境と防災などについて学習する体験型講座を実施する。また、広く一般区民向けの環境防災学習講座を実施する。		
事業の内容	(1) 小学校を対象とした環境防災学習講座の運営（18回） (2) 一般区民を対象とした環境防災学習講座の実施（1式） (3) 展示会の運営（1式） (4) 報告書作成（1式）		
役割及び責任分担等	事業項目	受託者の役割	委託者の役割
	①小学校を対象とした環境防災学習講座の運営(18回)	1 講座の企画及び運営 2 参加校との事前打ち合わせ 3 教材・資料等の作成 4 アンケートの実施回収	1 参加校の募集・申込受付 2 教材・資料等の印刷 3 広報・PR
	②一般区民を対象とした環境防災学習講座の実施(1式)	1 講座の企画及び運営 2 協力者との事前打ち合わせ 3 ちらしの版下作成・印刷 4 参加者募集事務 5 教材・資料等の作成・印刷	1 広報・PR
	③展示会の運営(1式)	1 展示会の企画及び運営 2 会場提供者との連絡調整	1 広報・PR
	④報告書作成(1式)	1 ①～③に関する報告書の作成	
⑤その他	1 第2条の事業目的を実現するために効果的と思われる取組の委託者への提案	1 上記①～④の他、第2条の事業目的に寄与する、受託者の自主的活動への後援や広報協力 (後援については、委託者が定める要綱に基づく申請を要する)	
実施期間	契約締結日から令和5年3月24日まで		

記入日	令和5年4月25日
・団体等名：	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク
・記入責任者 氏名：	阿部 裕治
連絡先：	045-546-4337
・部署名：	港北区区政推進課
・記入責任者 氏名：	矢野 布美子
連絡先：	045-540-2229

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができていたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 小学校講座は、講座内容を工夫するなど、安全な事業の計画づくりができた。講座実施までの間、日程の再調整を数回重ねることになったが情報を共有しあい、問題なくすすめることができた。
- 一般向け講座は、川と森を活用した講座を1回ずつ設定し、幅広い内容で企画・実施することができた。森の講座では、コロナ禍に制作した動画を活用することができた。
- 展示会は、早い段階で日程調整して企画し、会場との調整も問題なくすすめることができた。

【今後改善が必要と思われること】

- 小学校講座の内容の主軸が「環境・防災学習」であることについて、小学校と十分共有できるように計画する必要がある。
- 一般向け講座のアンケートで、「申込みをネットでできると良い」という意見があった。また、申込の必要事項が十分記載されていないケースが数件あった。QRコードから申込フォームにアクセスして記入する形式など、記入漏れも防止できるウェブ申込方法に改善できる余地がある。
- 展示会に成果物を出展できなかった小学校が多かったため、講座実施前から展示会での成果発表を意識してもらえよう、事前に小学校に伝えておく必要がある。

事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 小学校向け講座の実施にあたっては、両者で安全に運営する方法を検討・確認し、健康チェックや夏場の気温確認を行い、状況を踏まえて適宜改善を図った。
- 野外講座においては、現場の下見を行った。活動拠点や動線に草が繁茂している場合は除草し、安全に活動できるよう対応した。

【今後改善が必要と思われること】

- 一般向け講座で実施した鶴見川での魚とり体験が大変好評で、「体験時間が短かった」といった声があったため、体験時間を十分確保できるようタイムスケジュールを見直し、今後も安全に実施できるよう検討する。
- 事業実施状況をまとめた報告書の形式を見直し、報告書作成の負担を軽減するとともに、事業の成果や改善点を十分に共有できる形を模索し改めていく必要がある。

事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- 区民が身近な環境問題に関心を持って自主的・主体的な環境行動に取り組む意識啓発を図るため、互いの役割をまっとうし事業をすすめることができた。
- 展示会の会場に設置したゲストブックに書かれていた感想の中には、「すてきな取り組みをしている学校が近くにあると知り、嬉しかったです!」「発表掲示がとても面白く、良くできていたので早速愛着

がわきそうです！」とあり、展示会を通して、転入者を含む区民が身近な自然を再発見する機会になっただけでなく、港北区に魅力や愛着を感じられる機会にもなったことを認識することができた。

○鶴見川や支流の早淵川、矢上川で行った生きもの観察等の活動や、出前講座の水害、治水対策、水質改善等の解説を通して、鶴見川流域水マスタープランの洪水時水マネジメント、平常時水マネジメント、自然環境マネジメント、水辺ふれあいマネジメントの理解に寄与することができた。

自由記入欄

○講座当日の人員配置が急遽変更になった際など、日頃から協働の体制がとれていたため、相互の立場を理解し互いに補い合うことができた。

○新型コロナウイルスの感染状況に配慮し、中止していた一般向け講座を令和4年度は再開することができ、環境・防災について体験しながら学べる機会を提供することができた。今後、小学校講座で中止していた魚とり体験の再開についても検討していきたい。